

11. 小児義歯装着前後のSilent Period に関する研究

○大野 和夫, 住 和代, 大野 秀夫

森主 宜延, 小椋 正

(鹿大・歯・小児)

小児義歯は、過去の臨床的評価における報告から、欠損歯補綴に関する咀嚼能力の改善には有効であると考えられている。また、小児の顎顔面の発育に影響を与える小児義歯の咀嚼筋機能についての研究結果は2分し、明確にされていない。前回、我々の筋電図積分値評価においては、小児義歯の咀嚼筋機能の回復に関する影響は認められなかった。

そこで、今回は、tooth tapping 時の silent period により、小児義歯の咀嚼筋機能に与える影響について検討したので報告する。

研究材料ならびに方法：筋電図採取を3回行ない、1回目は初診時、2回目は小児義歯装着後1週間から3週間、そして3回目は小児義歯装着後6カ月後である。2、3回目には、小児義歯を撤去した状態と挿入した2つの状態について、電極をそのまま連続して採取した。その他、研究材料および方法は、Hellmanの咬合発育段階ⅡAならびにⅡCを対象とし、当講座の方法に従い、今回の資料から評価可能と判断されたsilent period 持続時間について検討した。

結果：silent period 持続時間は、ⅡAにおいて、筋電図採取2回目の小児義歯を挿入した状態は、同じく小児義歯を撤去した状態と比較し、延長傾向を示した。